

列状間伐研究会

- 1 日 時：平成 20 年 9 月 11～12 日
- 2 場 所：千葉県千葉市、山武市
- 3 出席者：（独）森林総合研究所、埼玉県、新潟県、富山県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、千葉県（9 機関、22 名）

4 会 議 （ 9 月 12 日）

（1） 試験結果・事例報告

- 1 列状間伐研究の概観 中村松三（森林総研）
- 2 ヒノキ人工林における列状間伐研究の目標と現状 田内裕之（森林総研）
- 3 高密度林分で行った列状間伐の効果 横井秀一（岐阜県）
- 4 列状間伐のくり返しの問題点 横井秀一（岐阜県）
- 5 列状間伐と残存木の偏心 近藤道治（長野県）
- 6 考えてみよう間伐効果の調査方法 嘉戸昭夫（富山県）
- 7 3 残 2 伐の列状間伐を実行後 30 年を経過したカラマツ人工林における落葉広葉樹の更新 田中 格（資料のみ、山梨県）
- 8 スギ・ヒノキ人工林の列状伐採等の抜き伐りによる針広混交林化 近藤 晃（静岡県）
- 9 多雪地のスギ成熟林の林分構造と列状間伐 武田 宏（新潟県）

（2） 今後の研究会の運営等

- ・ 森林総研はオブザーバーではなく共同研究機関として参加する。
- ・ 列状間伐後の残存木の成長、気象害の有無を中心として列状間伐の問題点となる情報を集め、その対策を検討する。
- ・ その他、花粉源対策、林床植生など各県の状況に合わせて調査を行う。
- ・ 共通のファーマットは作成しないが、列状間伐の方法、列状間伐前後の胸高直径分布、樹高、枝下高、林齢、搬出による傷等を測定する。
- ・ 人数が少ないので分科会は設置しない。
- ・ 平成 21 年度の研究会は新潟県で開催する。
- ・ 平成 22 年度の研究会は、「低コスト森林作業システム研究会」との合同開催について検討する（長野県で開催予定）。

（3） 報告書のまとめ方について

- ・ 前回の過密人工林における間伐手法研究会と同様に、各参画機関からの事例を集めて報告書を作成する。

5 現地検討 （ 9 月 11 日）

- ・ 千葉県農林総合研究センター森林研究所（サンプスギ、スギ非赤枯性溝腐病）
- ・ 牛尾氏所有山林（山武林業の大径木生産）
- ・ （株）倭和テクノス（地域の被害材を利用したウッドプラスチック製造）